

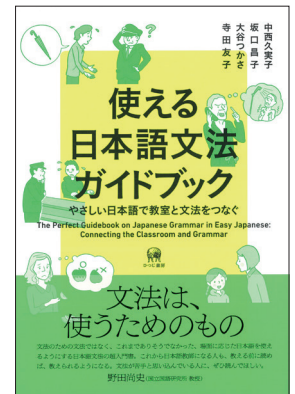
# 使える日本語文法ガイドブック

やさしい日本語で教室と文法をつなぐ

中西久美子・坂口昌子・大谷つかさ・寺田友子 著  
定価 1,600 円 + 税

## 文法は、使うためのもの

「使える日本語」を教えるために必要な情報を平易な日本語で書いたガイドブック。国際交流基金の JF 日本語教育スタンダードの A1 から B1 レベルの学習者を教える日本語教員が、日本国内外、母語話者かどうかによらず、授業の前に読んで使えるよう配慮。本書は単なる文法書でも、タスク集でもない。「文法は不要」と思っている方にも学習者に場面で必要なことができるようになるためのタスクにおいて、文法がどう埋め込まれているかをやさしく解く。



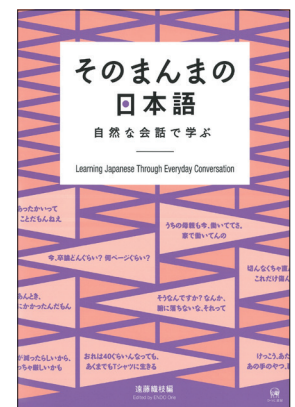
# そのまんまの日本語

自然な会話で学ぶ

遠藤織枝 編 阿部ひで子・小林美恵子・三枝優子・高橋美奈子・高宮優実・中島悦子・本田明子・谷部弘子 著  
定価 2,000 円 + 税

## 「わざとらしい」例文からの脱却。実際の会話で学ぶ日本語。

教えるのが恥ずかしくなるような、わざとらしくお行儀のいい会話、普通そんなこと言っていないよと言いたくなる型どおりの話し方、—— これらを廃し、従来の発想を大転換して本物の会話だけで作った中級学習者向けの日本語会話教科書。自然の談話の録音資料から選び抜いたナマの会話で、日本人のコミュニケーションの実際と、今の日本語の本当の姿をつかみとる。会話文のほか、「自然会話の特徴」「文化ノート」からも、日本語と日本文化を学習できる。



★音声 CD 付 (ダウンロードも可能)

# 日本語を学ぶ中国八路軍

我が軍ハ日本下士兵ヲ殺害セズ

酒井順一郎 著  
定価 2,600 円 + 税

## 戦争中、日本は敵国の言語の排斥を進めた。中国は、日本語を学ばせた。——なぜ？

戦争は兵士による武器の戦いだけではない。言語の戦いもある。日中戦争の際、中国八路軍は将兵に日本語教育を行い、日本人兵の心に響く説得工作を行った。本書はいままで知られていなかった戦場の日本語教育について明らかにする。



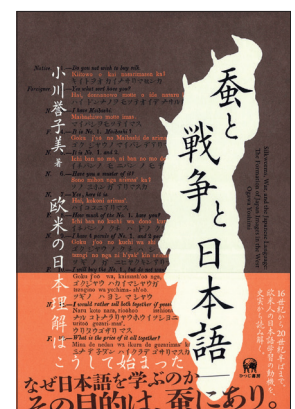
# 蚕と戦争と日本語

欧米の日本理解はこうして始まった

小川誉子美 著  
定価 3,400 円 + 税

## なぜ日本語を学ぶのか——？ その目的は、蚕にあり。

欧米の日本語学習は対日戦略とともに展開した。幕末の日本産「蚕」や日露戦争後の日本に注がれた関心が日本語の研究を促すなど、その動機は意外なところにあった。16 世紀から 20 世紀の西洋人の日本語学習は、綿密な計画とたゆまぬ努力、日本語教師たちの真摯な協力によって成果を生む。エピソードを交えながら当時の息吹を紹介する。



## 日本語教育における 「のだ」の研究

戴宝玉 著

定価 4,200 円 + 税

本書は、日本語学習者にとって最も習得困難な表現の一つであるノダを包括的に扱い、ノダの全体像を掴むことを試みる。ノダを先行事態を必要とするものと必要としないものの二つに分け、後者を前者の拡張したものと捉えることによって、一見無秩序に見えるノダの多様な意味を統一的に解釈することが可能になった。外国人日本語教師という筆者の立場から、本書における研究が教育現場でも役立つよう配慮した。

## 日本語教育における メタ言語表現の研究

李婷 著

定価 7,200 円 + 税

メタ言語表現の学習とコミュニケーションのメタ認知の向上を結びつける日本語教育を提案。日本語学習者の視点を基に、メタ言語表現の学習の意義を捉え直した上で、豊富な談話資料より収集したメタ言語表現を分析する。初級日本語クラスでの学び、インタビューで得られた学習者の語り、待遇コミュニケーション論と文章・談話論に基づいた分析、いずれも日本語教師や日本語教育研究者に有益である。

## 文脈情報を用いた 文章理解過程の実証的研究

学習者の母語から捉えた日本語理解の姿

石黒圭 編

定価 6,800 円 + 税

「家の奥」ってどこ？「若干名」って何人？「小枝を拾って食べる」？「観光地のソフト」と「ソフトの朝練」の「ソフト」は同じ？「名前を控える」と「お酒を控える」は？日本語学習者の頭のなかで起きている意味の理解という不思議な現象を、母語による分析からあぶり出し、その語彙推測能力や文脈把握能力に迫る画期的論文集！

## ビジネス文書の応用言語学的研究

クラウドソーシングを用いたビジネス日本語の多角的分析

石黒圭 編

定価 7,200 円 + 税

生きたビジネス文書をネット上からコーパスとして取り出せる時代が到来した。クラウドソーシングをデータベースとし、日本語の国立国語研究所と AI の富士通研究所のコラボで、ビジネス日本語の諸問題と改善法を実証的に明らかにした、新境地を開拓する論文集！

## 共同注意場面による 日本語指示詞の研究

平田未季 著

定価 6,400 円 + 税

日本語母語話者が目の前の対象へ共同注意を確立するために行うやりとりを観察し、それに基づいたコ系・ソ系・ア系の新たな意味論および語用論的分析を提示する。近年の海外の指示詞研究で注目されている「聞き手の注意の状態」などより相互行為的な要因を分析に導入し、直示用法、テキスト内用法、またコ系・ソ系・ア系に後接する「-レ」、「-コ」などの接尾辞も含め、相互行為場面に根差した統合的な日本語指示詞研究を行う。

## 近現代日本語の「誤用」と 言語規範意識の研究

新野直哉 著

定価 6,500 円 + 税

本書は、副詞“全然”に関する昭和 10～20 年代を中心とした学界・一般社会双方における規範意識の考察や、現代日本語における「誤用」の定番例として知られている“気がおけない”・“世間ずれ”・“名前負け”等の使用実態と言語規範意識についての考察を行い、さらに昭和戦前～20 年代の日本語の実態とそれに関する言語規範意識の研究に役立つ新資料の紹介およびそれを用いた研究の実例をも示したものである。

## 漫画に見られる 話しことばの研究

日本語教育への可能性

福池秋水 著

定価 5,000 円 + 税

東京を中心とした首都圏の話しことばは、首都圏方言と呼ばれ、多くのドラマ、漫画などの作品で用いられるほか、日本語の会話教育でも取り入れられることがある。本書では、主に漫画作品を対象として、ラ行音の撥音化（わからないーわかんない）等、首都圏方言の表現のゆれがどのように使い分けられているかに関する観察を行った。日本語学習者の表現の幅を広げる支援を行うための基礎研究となることを目指す。

## 自然会話分析への 語用論的アプローチ

BTSJ コーパスを利用して

宇佐美まゆみ 編

定価 4,500 円 + 税

「人間の相互作用としてのコミュニケーション」の語用論的分析に適した「基本的な文字化の原則（Basic Transcription System for Japanese: BTSJ）」を活用して自然会話データを分析した「コミュニケーションの本質」に迫る論文集。語用論、談話分析、日本語教育の新境地を開く！

